



《経営管理》 在院日数の指標

項目解説

診断群分類（以下DPC）ごとの在院日数を視点として、病院として効率よく診療していることを評価します。

そもそも、医療機関によって患者や疾患の構成は異なるため、それらを加味しない平均在院日数の比較は意味がありません。DPC/PDPSの導入によって、傷病名と治療行為ごとに患者が分類され、それぞれの全国平均在院日数も公表されています。この公表データによって、同じDPCでも自院の在院日数が全国平均よりも長いのか短いのか判断できます。

数値は1.0が全国平均となり、1.0よりも大きいほうが在院日数を短く効率よく診療していることとなります。

当院の実績

平成21年度	1.00	
平成22年度	1.02	
平成23年度	1.05	
平成24年度	0.97	
平成25年度	0.97	
平成26年度	0.93	
平成27年度	1.14	
平成28年度	未公開	※平成29年 6月現在

当院の自己点検評価

在院日数の管理と短縮は、病院にとって大きな課題の1つです。患者さんにとって不利益とならないよう、早期退院に向けた取り組みを行っていきます。

定義

厚生労働省DPC評価分科会の公開データ

算式
